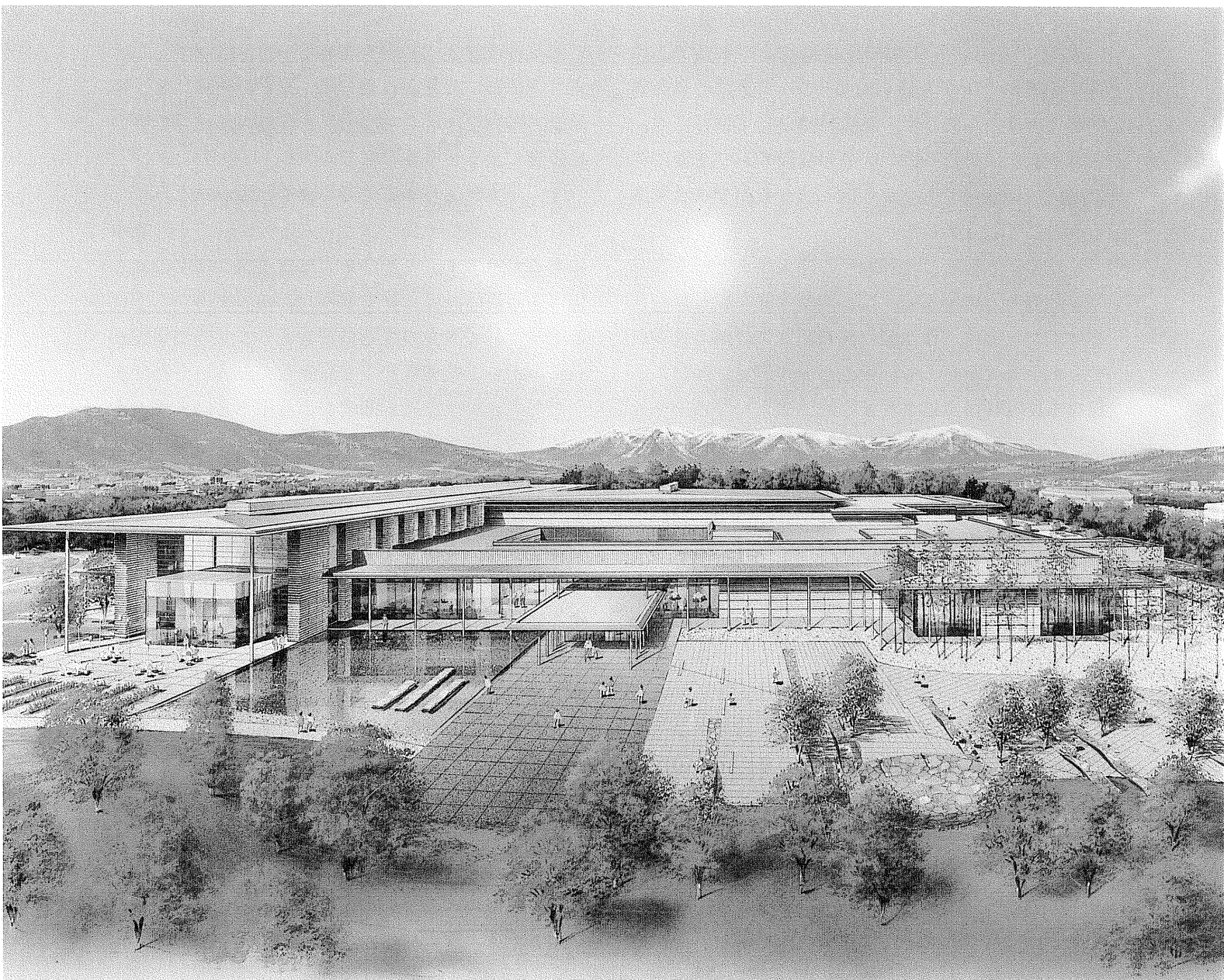


建築士 やまなし

No.46

— ARCHITECTURE YAMANASHI —



県立博物館の概要

建設地：東八代郡御坂町成田

建築工期：平成14年10月30日～

平成16年5月31日

構造・規模：RC造一部S造 地下1階平屋建て

敷地面積：約65,000㎡

建築面積：約9,690㎡

延べ床面積：約8,760㎡

開館予定：平成17年 秋

● 目次 ●

2. 会長就任あいさつ

会長 土谷 芳英

3. 平成16年度総会報告

4. 研修委員会 渡辺 正

福祉委員会 樋川 俊夫

5. 資格審査委員会 雨宮 健一

建築相談委員会 望月 光治

6. 編集委員会 鈴木 勇次

青年部 小田切 浩

7. 女性部 清水みどり

リニア試乗体験に参加して 斉藤亜紀子

蔵の町須坂見学会 石坂とし子

8. 平成16年度 関東甲信越建築士会ブロック会

東京大会報告 山根 健司

青年協議会東京大会報告 梶 重幸

9. 県からのお知らせ 山梨県土木部建築指導課

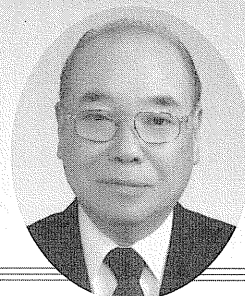
12. 事務局からのお知らせ

会員の動静 編集後記

会長就任あいさつ

(社) 山梨県建築士会

会長 土谷 芳 英



去る5月19日、平成16年度通常総会において不肖私が伝統ある山梨県建築士会の第7代会長に会員各位より推挙されました。私は自論として常日ごろ、建築士会の会長は県内1500名の会員の2/3を施工者で占めているのであるから施工者から出すべきであると信じておりました。

しかるに、私ごとき弱輩にこの大役をということは設計者の立場として、ことの重大さをひしひしと感じております。私は歴代会長諸賢には遠く及ぶべくもありませんが、幸い優秀な役員諸兄、並びに勤勉な事務局職員に恵まれました。また一昨年より自社を去って自由の身になりましたので余生の一部を建築士会と共に歩みたいと存じております。

どうか会員各位におかれましても名取前会長と同様ご指導ご鞭撻と同時に、忌憚のないご叱正を賜りますようお願い申し上げます。

さて、建築士が寄って立つべき社会的地位は昨今必ずしも確固たるものではありません。建築士会は行政と絶えず積極的に協力し、法の番人としての一翼を担うと同時に我々の資質の向上を目指さなくてはなりません。幸い、本県におかれましては担当課の各位様が親身になって士会のために、ご協力頂いておりますので、これにすがって今後とも努力していきたいと思っております。

今、一般市民は厳しく建築士の実態を見つめております。建築士の職域は広く且つ各専門分野にわかれている会員で成り立っています。即ち建築士は、設計監理者、工事施工者、構造設計者、設備設計者、行政関係者、学術研究者、等でありこれを一把ひとからげて論ずるわけには参りません。そこで今建築士会では市民の期待に応えるため、各自の専門性を開示し、自分の職業責任を明確にする必要に迫られているのです。日本建築士会連合会ではもう10年も前からこのことに着目し、各単位建築士会と協力し

て漸く専攻建築士制度を建築士の自主的制度として立ち上げることとなりました。又そのためには、継続能力開発システム（CPD）を実施し、相互の実力を研磨しようとするものです。

今、日本はあらゆる分野で改革の嵐が吹き荒れております。建築士会も我々一人々々が総てその渦中にあるわけです。今年はまず専攻建築士制度の立ち上げをしなければなりません。この制度の立ち上げの前提として多少の優遇措置もありますので年配会員におかれましてもどうぞ遠慮なくお問い合わせをいただき、専攻建築士制度をご活用下さいますようお願い申し上げます。又、本年度は既に各委員会構成も終わり、活動の段階に入っておられる委員会もありますが、どうか既成の活動にこだわらず、委員会独自の考えを出して頂き、特色ある事業を展開して頂きたいと思ひます。とは申せ、事務局とは勿論連携を持って頂き遺漏なきようお願い致します。

平成18年度には関東甲信越建築士会ブロック会青年協議会が本県において開催されることに決定されております。もう既にこの大会の成功を期して青年部では準備に入りつつあります。又女性部に於きましても着々と成果のある事業に取り組んでおりますことは会員各位の努力の賜物に他なりません。

最後になりましたが、会員諸兄、関係行政機関、又友好諸団体の皆様のご指導、ご叱正を心よりお願い申し上げ、会長就任の挨拶といたします。



平成16年度

通常総会報告 — 事務局 —

平成16年5月19日(水)14時30分より甲府市丸の内一丁目13番7号、山梨県建設業協会甲府支部3階ホールにおいて、平成16年度通常総会を正会員1,504名中617名(委任状522名を含む)の出席を得て開会した。

(総会は、社団法人 山梨県建築士会 定款第29条の規定により正会員の3分の1以上に達したので開会は有効とする。)

1. はじめのことばを副会長 渡辺 正君が、会長あいさつを会長 名取藤彦君が述べた。続いて物故会員の黙祷、来賓の紹介をし、保坂茂久 山梨土木部技監、佐久間 勲 甲府市都市建設部長より祝辞をいただき議事に入る。
2. 議事に入る前に、社団法人 山梨県建築士会 定款19条の規程により、会長名取藤彦君が議長となる。続いて議長より議事録署名者に甲府支部の進藤哲雄君と佐々木幸一君の2名を指名し、それぞれ承諾を得た。
 - ①議事に入り、第一号議案「平成15年度事業報告について」並びに第二号議案「平成15年度収支決算報告について」の両議案を一括上程し事務局より説明があった後、監事の金井彰彦君より「厳正且つ適正に処理されている」旨の監査報告がなされ、議長が議場に諮ったところ全員異義なき旨の回答があり承認された。
 - ②次に第三号議案「本会役員改選について」評議員会議長鈴木武君より評議員会において、会長1名、副会長4名、理事42名(会計理事1名を含む)、監事2名を別紙のとおり満場一致をもって選出した旨報告があり、議長が全員に諮ったところ異義なき旨の回答があり承認された。
ここで、名取会長より退任の挨拶があり、議長席を降りた。続いて土谷新会長が議長になり、就任の挨拶と新役員全員が就任を承諾する旨の報告がなされた。
 - ③続いて、第四号議案「平成16年度事業計画(案)について」並びに第五号議案「平成16年度収支予算(案)について」の両議案を一括上程し、事務局より説明が行われ全員異義なく原案通り承認され、議事はとどこおりなく終了した。
 - ④その他について、出席者から特段の発言もないので議長は議事進行に対する協力を謝して議長席を降りる。
3. 議事が終わり、副会長 天野辰雄君がおわりのことばを述べ、ここに平成16年度通常総会は盛会裡に無事終了した。

平成16年度 感謝状贈呈者 (敬称略)

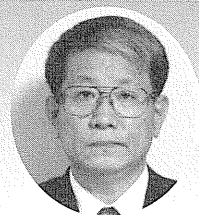
氏 名	所属支部
功 刀 博文	甲 府 支部
望 月 健	甲 府 支部
中 込 敏 雄	中巨摩 支部
平 柳 健 次	塩 山 支部
村 松 袈裟美	石 和 支部
石 川 勇	市 川 支部
松 永 春 男	身 延 支部
猪 股 信 之	韮 崎 支部
中 村 源 太郎	北富士 支部
金 子 憲 一	大 月 支部
横 井 源 治	都 留 支部

平成16・17年度 理事及び監事 (敬称略)

役 職	氏 名	役 職	氏 名
会 長	土谷 芳英	理 事	佐々木幸一
副 会 長	渡辺 正	"	望月 猛
"	遠藤 順彦	"	望月 健
"	天野 辰雄	"	望月 雄二
"	樋川 俊夫	"	柳 貴之
常任理事	矢ヶ崎 欽也	"	進藤 哲雄
"	望月 三千夫	"	秩父 善治
"	大柴 正明	"	久保田 要
"	千野 幹雄	"	長田 孝三
"	佐野 眸	"	柳田 雅代
"	望月 光治	"	飯窪 功児
"	雨宮 健一	"	平柳 健次
"	中込 敏雄	"	宮川 寅泰
"	石井 輝男	"	木村 亮
"	雨宮 莊一	"	岩浅 正気
"	内藤 吉雄	"	柳本日出男
"	平井 剛	"	加賀美庄三
"	小池 兵雄	"	和田 之男
"	小田 彰	"	横井 源治
"	日向 達夫	"	小田切 浩
会計理事	山田 晃	"	清水みどり
理 事	清水 昭夫	監 事	金井 彰彦
"	鈴木 勇次	"	斉藤 康弘
"	松永 久士	専務理事	板山 寛秋
"	勝俣 茂		

研修委員会

委員長 渡辺 正



このたび、研修委員として士会に御奉仕するよう会長より命ぜられ、過日、委員会の席にて、通算三期目の委員長として任務に当る事となりました。今期、研修委員会に新しく加えられた主要業務は専攻建築士制度の開始です。社会、消費者に向けて良好な建築環境を提供する義務のある建築士は現在様々な分野で活躍し、その業務も多様に専門分化しています。建築士は建築士業務の専門分化という時代の現実を真摯に受け止めるならば、少なくとも自らの責任を果たす専門業務領域とその能力を消費者や社会に明示する責任があります。

建築士会では『建築士の専攻(専門)領域を認定登録し社会に明示する制度』として『専攻建築士制度』を制定いたしました。『専攻建築士』の名称・区分は、まちづくり・設計・構造・環境設備・生産・棟梁・法令の7領域です。これらの専門領域が、自らの業務について責任をとることを宣言する領域の範囲であることを示すものであり、さらに自己の実務実績やCPD(Continuing Professional Development=継続能力開発)の履修などによる申告に基づき審査機関が認定する得意分野を『専門分野』として表示することもできます。従って『専攻建築士の審査』は、指定されたCPD規定単位数の取得確認などを通して常に自己研鑽をどのように行っているかと言う事です。これらの判定単位の源は各種研修会・講習会となるわけで、研修委員会の責任は重大と言わざるを得ません。また、専攻建築士制度の開始により、士会事務総量の極端な増大が予想されるところであり現在でも、板山専務理事様以下の事務局スタッフ個々の好意による超過密業務処理に甘えている実情は、なんとか改善されなければならないと考えております。

前期、多くの不安を感じつつ研修委員会業務に携って参りましたが、板山専務理事様の暖かい御指導、御協力を戴きながらようやく任期を全うする事が出来ました事に対し深甚なる感謝を申し上げます。その間、頼りない委員長を叱咤激励しながら、お支え下さいました委員の方々、会員各位に対し重ねて感謝を申し上げます。

前期、多くの不安を感じつつ研修委員会業務に携って参りましたが、板山専務理事様の暖かい御指導、御協力を戴きながらようやく任期を全うする事が出来ました事に対し深甚なる感謝を申し上げます。

その間、頼りない委員長を叱咤激励しながら、お支え下さいました委員の方々、会員各位に対し重ねて感謝を申し上げます。

平成16年・17年度 研修委員会委員

◎委員長

○副委員長

◎渡辺 正
小田切 浩
興石 範子

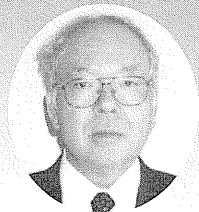
○天野 辰雄
笠井 英俊
瀧井 大文

○斉藤 康弘
久保寺 淳
土谷 芳仁

市原文 子
小池 舜一
望月 雄二

福祉委員会

委員長 樋川 俊夫



前期に引き続き福祉委員長の命を受けました。当福祉委員会の目的は、言うまでもなく会員相互の親睦と融和であります。その中でも恒例行事としての全県下の会員が集合して行うスポーツ振興大会は、その頂点にあります。

この2年間かつてのソフトボール大会からグラウンドゴルフ大会に切り替えました。盛夏の炎天下にもかかわらず、200名を越す大勢の人々が相集い、競技への全員参加のなかで競い合いと共に語らいを得る場となりました。担当された大月・都留両支部の皆様のご芳苦に深く感謝と敬意を表します。本年度も引き続きグラウンドゴルフ大会を甲府市小瀬スポーツ公園に移して8月に実施いたします。

さらに建築士会全国大会への参加も各支部よりご協力を

いただき三重大会・宮崎大会と多数の出席を賜りました。重ねて感謝いたします。今年度は、10月に和歌山大会が開催されます。

さて、全国的には士会会員の数が、経済情勢も影響し減少の傾向をみせつつありますが、本県ではなんとか微増の状況であります。業務を通じての研鑽・研修と共に同じ目的を目指す会員同士が信頼しあい、助け合い、心が通じ合える士会になりたいと思っております。福祉委員会といたしましては、2つのメインイベント以外にも皆様の率直なご意見を賜りながら、一步一步実績を積み重ねていきたいと思っております。

どうぞ皆様のご協力をよろしくお願い致します。

平成16年・17年度 福祉委員会委員

◎委員長

○副委員長

◎樋川 俊夫
市川 幸治
望月 等

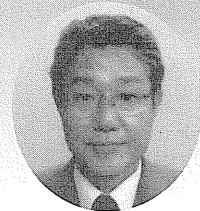
○望月 健
小池 兵雄
柳 貴之

雨宮 莊一
佐野 眸

石坂 とし子
平井 剛

資格審査委員会

委員長 雨宮 健一



建築資格制度のありようが問われている昨今、建築士会が目指す新しい建築士像は、消費者ニーズ、国際環境の変化等をにらんで、地球環境への配慮をはじめ、建築環境を創り、育て、守るために必要な幅広い基礎的素養、高い専門能力、健全な職業倫理の条件を有する建築技術者集団総体を新しい建築士像と捉えています。現行法の定義に従えば、建築士の業務領域は設計及び業務監理プラスその他業務と言うことになっていますが、建築士の業務領域を社会的ニーズの実態に合わせ、より拡大的に捉え、新しい建築士像の目指す業務領域は、建築士の業務対応の実態を踏まえ、施工関連業務や、まちづくり関連業務、更には、ストック関連業務といった幅広い業務をも視野に入れて建築士の専門分化への対応を、新たな建築資格制度ではしっかりと受けとめ、的確に対応すべきと考えます。また、平成14年11月に継続能力開発制度が発足し、建築資格制度についての本格的論議が始まるなかで、法的制度も含め、今

後の国内資格制度を、国内、外の社会的状況の変化を踏まえて、どう抜本的に見直すべきか。資格制度の国際化対応をどう考えるか。と二つのテーマの検討が鋭意進められています。既に、平成14年に入り、専攻建築士制度推進特別委員会が新たに設置され、平成15年度には、栃木、東京、静岡、大阪の4建築士会で専攻建築士制度が先行実施され、それぞれの単位会での審査評議会を経て、平成16年3月に開催された専攻建築士認定評議会にて全国で1704名の専攻建築士が認定されました。平成17年度には全単位会で実施されるよう進められています。このように、我々建築士をとりまく環境が急速に変化してゆく中での、資格審査委員長を仰せつかり、誠に身の引き締まる思いでございます。本年も委員会では、立派な資質を持った建築士が一人でも多く誕生しますよう期待を掛け、厳正な資格審査を実施する所存です。どうか委員諸兄はもとより、会員の皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

平成16年・17年度 資格審査委員会委員

◎委員長

○副委員長

◎雨宮 健一
木村 亮
望月 喜二

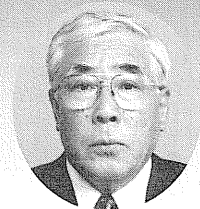
○進藤 哲男
久保田 要
柳田 雅代

勝俣 茂
清水 昭夫

金山 輝男
松永久士

建築相談委員会

委員長 望月 光治



土谷会長はじめ役員の選任がなされ、当委員会も新しく3名の委員が加わり委嘱を受け構成された。

その中で今期も委員長をすることになりました。年長と言うことで…ともかく頑張っていると思っていますのでよろしくお願い致します。

士会に廻ってくる相談は総てが苦情相談と言っても過言でなく、その処理は板山専務理事がしてくれています。委員会では建設的相談での対応を待つことのみを考えて、窓口を支部へひろげ又相談会の企画等思慮して来ましたが現状です。今更ながらと言われるかもしれませんが、よくよく考えてみると、いや考えなくても会員の皆様は日常各々の立場で建築相談の活動はしていたのです。

建築相談の内容は具体的建築計画からはじまり、住まい

づくりにあつてはその考え方、耐震安全性、バリアフリー、高齢者対応、そして防犯、品質保証等なかみは複雑多岐、特に最近ではシックハウスについて使用材料、設備関係と分野が巾広くなり、更に紛争・トラブル、基礎・地盤、建築コスト、法制度、等々勉強に情報の必要性が強く感じられます。これらのためには当建築相談委員会は士会が行う会員の皆様と一般消費者を「つなぐ」ための役割を果たす努力をなくてはなりません。幸いCPDから研修が積まれていますし、保証機構山梨事務所からの資料、情報の提供も可能と思われれます。会員の役に立つ委員会として頑張りますのでご協力をお願いします。

勿論建築士会として社会に向いての建築相談に対応することも役割としています。

平成16年・17年度 建築相談委員会委員

◎委員長

○副委員長

◎望月 光治
秩父 善治
山下 論

○山田 晃
中込 敏雄
山本 和明

佐々木 幸一
宮下 幸夫

清水 みどり
望月 照彦

編集委員会

委員長 鈴木 勇 次



この度、私は編集委員の互選により土谷会長から委員長に委嘱されました。

今回、編集委員として選出されたメンバーは、小尾編集副委員長はじめ委員の経験が豊富であり心強く感じています。

故小田切善一編集委員長の後任として勤めることができるのか不安ではありますが、青年部からの活動を通じ、建築関係に従事している諸先輩方や同年代の方々など様々な建築関係者と知り会えたことが私の支えでもあり、会員の皆様のご協力をいただき委員長の職務に励む所存であります。

年2回の会誌「建築士やまなし」の発行や2年毎に事務局と連携した会員名簿の刊行及び広報活動などが主な委員会の業務ですが、何よりも会誌を通じて会員相互の情報交

換の場として、各支部ごとの活動や各委員会・青年部・女性部会の活動及びトピックスなど掲載していきたいと思っています。

様々な情報を共有することにより建築士の業務の進歩改善や品位の保持向上に一つでも役立つよう、かつ、親しまれる会誌づくりに意を注いでいきたいと思っています。

また、会員の皆様からも多いに忌憚のないご意見・ご要望・ご投稿等をお寄せいただき、行政にも掲載に協力をお願いし、的確な情報をお知らせすることにより、会誌の充実も併せて図ってきたいと思います。

最後になりますが、編集委員一同期待に添えるよう頑張っていますので、会員皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成16年・17年度 編集委員会委員

◎委員長

○副委員長

◎鈴木 勇 次
窪田 方 樹
星野 正 男

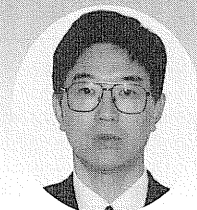
○小尾 昭 七
河野 広

市川 瑞 枝
名取 あき子

長田 孝 三
西野 創

青年部

部長 小田切 浩



この度、青年部長を仰せつかりました小田切と申します。職場の先輩に誘われて青年部に参加してはや19年、この間仕事の枠を超えた多くの方々の知遇を得、また様々な貴重な経験をさせていただきました。これも一重に青年部の先輩方が築いてきた伝統のおかげと感謝しております。これからの任期中微力ではありますが、仲間と力を合わせ、この素晴らしい伝統の継承発展に向け一生懸命努力していく所存であります。皆様の暖かいご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

さて、今年度青年部では、活動方針として「自分のために、仲間のために、社会のために、おもしろく、楽しく、心に満足を」を掲げました。それぞれ仕事を持ちながらの参加になりますので、時間等の制約に打ち勝つだけの動機づけ即ち自分のためになると思えることが参加の第一歩であり、これはこれで大切にしなければならないことだと思います。しかし、ここで終わることなく、「自分のために」がそのまま「仲間のために」、「社会のために」と同心円的に広がっていくことが青年部活動の本来の姿であると考えます。また、活動はやってみたくなる、やっていて楽しいが基本ですが、加えて満足感や達成感が得られることが何よりも大切であると考えます。

今年度は、「協働と情報発信」をテーマに、主要事業とし

てアルプス通り景観まちづくりや富士河口湖町などの各地のまちづくりへの参加、「やまなし建築塾 やまなしの木造講座」の実施、平成18年度関プロ山梨大会開催に向けた準備を行うことになりました。

まちづくりに参加する地域は、今ここで地元の建築士として情報を発信しなければならない状況にあると私たちが考える地域です。「やまなし建築塾」はやまなしの建築について理解を深めることを目的とした勉強会で、今年度は手始めとしてやまなしの木造を取り上げました。県産材、伝統的な住まいや工法・技術などについて勉強し、最終的には青年部としての「甲斐の家」の提案を目指しています。

関プロ大会は関東甲信越10都県約500人の青年建築士が集い、情報交換と相互の交流を深める一大イベントです。山梨大会では、各都県建築士会同士の交流に加え、地域を巻き込み建築士会の外側に向け積極的に情報を発信していきたいと考えています。

あとさきを考えない楽天的な性格ゆえあれもこれも仲間と迷惑を掛けっぱなしですが、とにかくやってみるということで、青年部は今熱くそして楽しく燃えています。このような青年部に、是非とも多くの方の参加を心よりお待ちしております。

平成16年度 関ブロ東京大会を終えて

山根 健司

関ブロ東京大会を終えて、一番最初に思ったことは、「楽しかった!(やっと終わった)」。今年は、分科会発表者を選んで頂いて、本当に貴重な体験が出来ました。

大会テーマは「建築真時代」。そして、分科会テーマは「建築士の価値と領域」。今、我々、建築士に問われる真価と可能性、そして今、何を見つめるべきなのか。今の時代に合った、素晴らしいテーマだったと思います。

テーマに対する発表の視点は、「建築士のできるまちづくり」、「建築士が考えるべき住まいづくり」と大きく2つに分かれ、各県発表者ともそれぞれの視点と、地域での実践活動をもとにした素晴らしい発表をされました。人それぞれが色々な考えや視点を持ち、様々な経験をされている。そんな人たちとふれあい、自分ひとりでは考えもしなかったようなことを

学び、気付かせてくれる。なんと素晴らしいことでしょう。関ブロ大会に参加された約500人の人たちすべてと話をすることは難しいですが、それでも、様々な人たちと話しをすることが出来ます。普段、こんなに多くの建築士と話しをする機会はそうそうないでしょう。自分の一つの飛躍のために関ブロは本当に素晴らしい会だと思います。

そうそう、ちなみに私の発表内容ですが、「校歌から見えるふるさと風景」。誰でも心のどこかに残っている学校の校歌。そんな校歌をもとに、まちに住む人々みんなでまちづくりが出来ないか。そんなことをテーマに発表をさせていただきました。私も今、実際に一つのまちづくりに参加しています。関ブロに参加したことを基に、このテーマを形に出来るようこれからも取り組んでいきたいと思っています。

平成16年度 関東甲信越建築士会ブロック会青年協議会東京大会

棚 重 幸

今年度の大会は6月19,20日に東京の「晴海トリトンスクエア」に於いて「建築真時代」というテーマのもと開催されました。山梨の参加者は大型バスにて身延を6時に出発し、櫛形、甲府駅、石和、大月、上野原より総勢30名が同乗しました。上野原まではあまりにもスムーズに、そして都内では多少の渋滞にはまりましたが無事会場に12時に到着しました。

分科会発表は本県からは甲府支部の山根健司さんが「校歌から見えるふるさと風景」と題し発表しました。発表順でトップバッターでしたが見事な発表をしました。(1位は長野代表者で全国大会への代表になりました)

分科会第1部発表後、別棟では「建築士の新しい潮流への取り組み」と題した討論会が開催され、パネラーとして長田孝三さん、小田切浩さんが参加し専攻建築士の役割、意義について討論を展開していました。

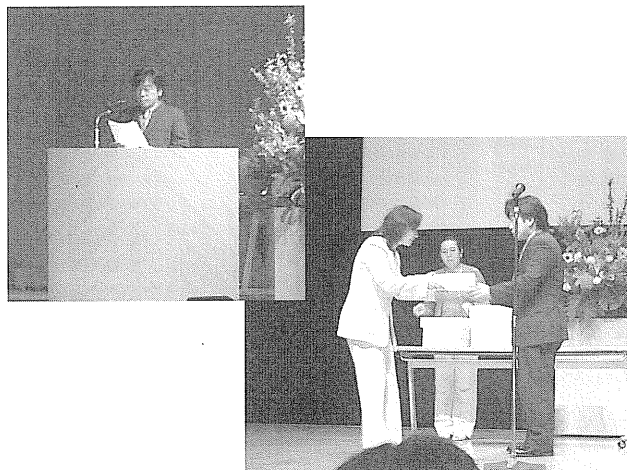
今回の東京大会では分科会以外にも「講演会」「シンポジウム」「CPDセミナー」等多く企画されていましたが、あまりにも盛りだくさんで、時間も重なって少しもったいない感じがありました。東京大会の実行委員の方々も大変だったと思います。ちなみに今回参加でCPD単位を8取得しました。

夜は「晴海客船ターミナル」に於いて懇親会、その後二次会と続き部会員の親睦も深まりました。

翌日は東京都内の見学と言うことで青山表参道のプラダ、同潤会アパート跡地の神宮前再開発工事、恵比寿ガーデンプレイスなどを回りました。

充実した2日を過ごすことができ、関係者、参加者の皆さんご苦労様でした。

さて来年は群馬大会(IN伊香保)。そして再来年は山梨大会です。



平成16年度 関ブロ東京大会を終えて

山根 健司

関ブロ東京大会を終えて、一番最初に思ったことは、「楽しかった!(やっと終わった)」。今年は、分科会発表者を選んで頂いて、本当に貴重な体験が出来ました。

大会テーマは「建築真時代」。そして、分科会テーマは「建築士の価値と領域」。今、我々、建築士に問われる真価と可能性、そして今、何を見つめるべきなのか。今の時代に合った、すばらしいテーマだったと思います。

テーマに対する発表の視点は、「建築士のできるまちづくり」、「建築士が考えるべき住まいづくり」と大きく2つに分かれ、各県発表者ともそれぞれの視点と、地域での実践活動をもとにしたすばらしい発表をされました。人それぞれが色々な考えや視点を持ち、様々な経験をされている。そんな人たちとふれあい、自分ひとりでは考えもしなかったようなことを

学び、気付かせてくれる。なんと素晴らしいことでしょう。関ブロ大会に参加された約500人の人たちすべてと話をすることは難しいですが、それでも、様々な人たちと話しをすることが出来ます。普段、こんなに多くの建築士と話しをする機会はどうそうないでしょう。自分の一つの飛躍のために関ブロは本当に素晴らしい会だと思います。

そうそう、ちなみに私の発表内容ですが、「校歌から見えるふるさとの風景」。誰でも心のどこかに残っている学校の校歌。そんな校歌をもとに、まちに住む人々みんなでまちづくりが出来ないか。そんなことをテーマに発表をさせていただきました。私も今、実際に一つのまちづくりに参加しています。関ブロに参加したことを基に、このテーマを形に出来るようこれからも取り組んでいきたいと思います。

平成16年度 関東甲信越建築士会ブロック会青年協議会東京大会

棚 重 幸

今年度の大会は6月19,20日に東京の「晴海トリトンスクエア」に於いて「建築真時代」というテーマのもと開催されました。山梨の参加者は大型バスにて身延を6時に出発し、櫛形、甲府駅、石和、大月、上野原より総勢30名が同乗しました。上野原まではあまりにもスムーズに、そして都内では多少の渋滞にはまりましたが無事会場に12時に到着しました。

分科会発表は本県からは甲府支部の山根健司さんが「校歌から見えるふるさとの風景」と題し発表しました。発表順でトップバッターでしたが見事な発表をしました。(1位は長野代表者で全国大会への代表になりました)

分科会第1部発表後、別棟では「建築士の新しい潮流への取り組み」と題した討論会が開催され、パネラーとして長田孝三さん、小田切浩さんが参加し専攻建築士の役割、意義について討論を展開していました。

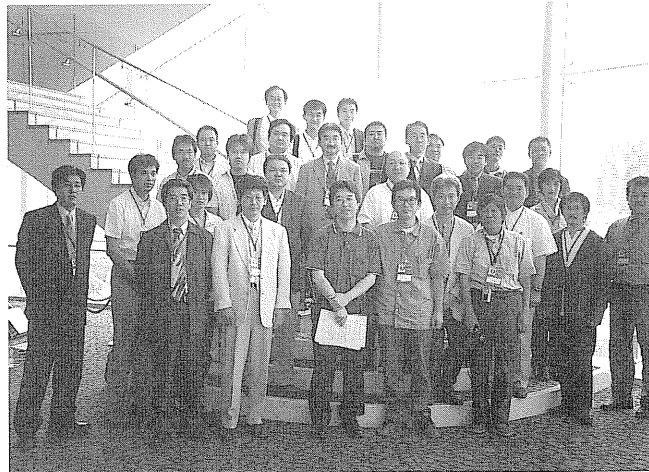
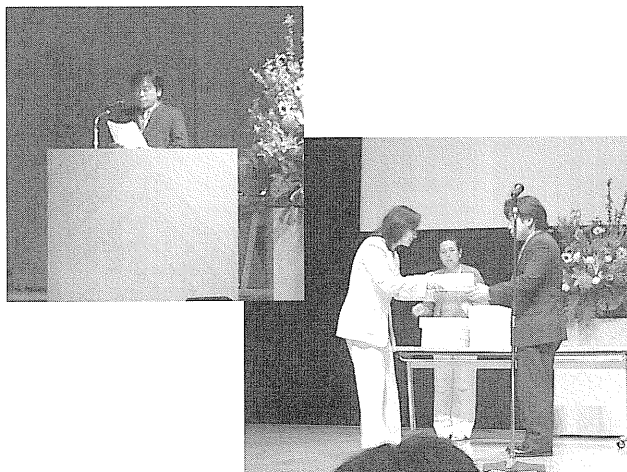
今回の東京大会では分科会以外にも「講演会」「シンポジウム」「CPDセミナー」等多く企画されていましたが、あまりにも盛りだくさんで、時間も重なって少しもったいない感じがしました。東京大会の実行委員の方々も大変だったと思います。ちなみに今回参加でCPD単位を8取得しました。

夜は「晴海客船ターミナル」に於いて懇親会、その後二次会と続き部会員の親睦も深まりました。

翌日は東京都内の見学と言うことで青山表参道のプラダ、同潤会アパート跡地の神宮前再開発工事、恵比寿ガーデンプレイスなどを回りました。

充実した2日を過ごすことができ、関係者、参加者の皆さんご苦労様でした。

さて来年は群馬大会(IN伊香保)。そして再来年は山梨大会です。



県からのお知らせ

山梨県建築指導課

<http://www.pref.yamanashi.jp/doboku/kenchiku/index.htm>

◎平成16年度 山梨県被災建築物応急危険度判定士養成講習会

県では、大規模地震の発生を想定し、各種の震災対策を進めているところであります。本事業は、大規模地震発生後の余震などに対し、被災建物が引き続き安全に使用できるか判定する「応急危険度判定士」養成のための講習会を開催するものです。今年度は、新たに判定士として登録していただける建築士の方々を対象に、講習会を次のとおり開催します。御本人様だけでなく、知り合いの建築士にも声をかけていただき、出来るだけ多くの方々に受講していただきたいと考えております。申込み先については、(社)山梨県建築士会となります。また、本講習会は、継続能力開発（CPD）の対象となっております。

日 時：平成16年8月27日（金） 午後1時30分～午後4時30分

会 場：山梨県自治会館 1階講堂

受講料：無料（テキスト共）

定 員：240名

◎緊急木造住宅「わが家の耐震診断」支援事業について

昨年度スタートした本事業につきましては、市町村と連携して木造住宅の耐震診断を実施し、耐震化への意識啓発、推進を図り、地震に強いまちづくりを進めるものです。概要と今年度実施市町村については、次のとおりです。是非御活用下さい。詳細については、下記市町村にお問い合わせ下さい。

対象建物：昭和56年5月31日以前に着工した2階建て以下の木造在来工法による住宅。長屋、共同住宅は対象とはなりません。

事業内容：診断を希望する方は、下記市町村に申し込んでいただき市町村が派遣する「山梨県木造住宅耐震診断技術者」が調査します。住宅所有者への個人負担はありません。

実施市町村名：甲府市、富士吉田市、塩山市、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、石和町、御坂町、芦川村、豊富村、上九一色村、六郷町、増穂町、中富町、敷島町、田富町、双葉町、武川村、山中湖村、富士河口湖町、昭和町、南部町、玉穂町、竜王町、身延町、八代町、勝沼町、下部町以上30市町村

◎平成16年度 山梨県建築文化賞の募集について

本賞は、県内において、快適な地域環境を形成し、景観上及び機能性等に優れた建築物等を表彰することにより、建築文化の高揚を図り、魅力と風格のある文化的で快適なまちづくりの推進を目的とするものであり、県内で、過去1年以内に竣工した建築物等を対象に募集します。国及び都道府県の建築物等や重要文化財は除かれます。推薦は自薦、他薦を問いませんが、建築主等の了解を得たものに限ります。

募集期間：平成16年7月1日～8月20日

提出先：県庁建築指導課または最寄りの地域振興局建設部へ提出して下さい。

◎山梨県個人住宅建設資金貸付制度の利用について

本制度は、住宅金融公庫の融資又は証券化支援事業による融資を受けて、住宅を建設するとき、その融資だけでは資金が不足する場合に、金融機関から受ける融資に対して県が金融機関に利子補給し、貸付金利を低くすることにより、良質な住宅の取得を容易にするために設けられた制度です。貸付条件等は次のとおりです。是非御活用下さい。詳細は建築指導課又は住宅金融公庫取扱い金融機関に問い合わせ下さい。

住宅の種類	貸付限度額	貸付期間	貸付利率
※新築住宅等	400万円	15年以内	2.8%（固定金利） ※県が利子補給することにより、 この利率になります。
改修住宅	200万円	10年以内	

※ 新築住宅等：新築住宅、分譲住宅、建売住宅、マンション、中古住宅を含みます。

◎建築基準法の一部改正について

I 建築物の安全性及び市街地の防災機能の確保等を図るための建築基準法等の一部を改正する法律が平成16年6月2日公布されました。

○主な改正の概要

(1) 位置の制限を受ける処理施設の明確化等（建築基準法第51条）

建築基準法第51条の位置の制限を受ける処理施設が次のとおり政令で規定され、平成16年7月1日から施行されています。（建築基準法施行令第130条の2の2）

- ① 廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第5条第1項のごみ処理施設（ごみ焼却場を除く。）
- ② 次のイ又はロに掲げる処理施設（工場その他の建築物に附属するもので、当該建築物において生じた産業廃棄物のみの処理を行うものを除く。）
 - イ 廃棄物処理法施行令第7条第1号から第13号の2までに掲げる産業廃棄物の処理施設
 - ロ 海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律（昭和45年法律第136号）第3条第14号に掲げる廃油処理施設

なお、位置の制限を受けない処理施設については、建築基準法施行令第130条の2の3の規定に緩和措置が追加されています。

(2) 既存不適格建築物に関する規制の合理化（建築基準法第86条の7、第86条の8）

これまで増改築時には、既存も全て現行法令に適合させなければなりませんでした。次の場合等には、既存不適格のまま増改築等ができることとなります。この規定の施行は、1年以内の政令で定める日からとなります。

- ① 政令で定める規定（※）に関しては、一定の範囲内で既存部分に適用されないこととなります。（※政令は1年以内に制定されます。）
- ② 既存の一の建築物について2以上の工事に分けて工事を行う場合には、全体計画の認定を受けることにより、工期を分けて、必要な改修を順次行うことが可能となります。

(3) 建築物に係る報告・検査制度の充実及び強化（建築基準法第12条）

国や県等の建築物についても定期点検が義務づけられます。

建築基準法施行令の一部を改正する政令について、次の国土交通省のホームページからダウンロードすることができます。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha04/07/070617_.html

Ⅱ 「景観法」、「景観法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」及び「都市緑地保全法等の一部を改正する法律」のいわゆる景観緑三法が、平成16年6月18日公布されました。

○施行日 「景観法」、「景観法の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」のうち景観地区、準景観地区等に関する規定は、公布の日から1年以内の政令で定める日
その他の規定は、公布の日から6ヶ月以内の政令で定める日

○景観法

都市、農山漁村等における良好な景観の形成を図るため、良好な景観の形成に関する基本理念及び国等の責務を定めるとともに、景観計画の策定、景観計画区域、景観地区等における良好な景観の形成のための規制、景観整備機構による支援等を行う。

基本理念 国民・事業者・行政の責務の明確化

景観行政団体（原則市町村*）による景観計画の作成

- * 景観行政団体
- ① 政令指定都市、中核市は自動的
 - ② その他の市町村は都道府県との協議・同意による
 - ③ ①、②以外の地域は都道府県

・住民やNPO法人による提案が可能（土地所有者等の3分の2以上の同意が必要）

景観計画の区域（都市計画区域外でも指定可能。）

- ・建築物の建築等に対する届出・勧告を基本とするゆるやかな規制誘導
- ・建築物・工作物のデザイン、色彩については、条例で変更命令が可能（高さ等については変更命令不可）
（違反した場合は、代執行、罰則で担保）
- ・「景観上重要な公共施設」の整備や「電線共同溝法」の特例

景観協定

住民合意（全員合意）によるきめ細やかな景観に関するルールづくり

○協定事項（例）

- ・建築物のデザイン、色彩、規模、用途等に関する事項等

〔商店街での
取組イメージ〕



景観重要建造物

- 景観上重要な建築物・工作物・樹木を指定して積極的に保全
- ・現状変更について許可が必要
- ・不許可の場合は損失補償
- ・相続税の適正評価（国税庁と調整中）



〔イメージ〕

景観地区（都市計画）

又は 準景観地区

- ・より積極的に景観形成を図る地区を指定

- 必須事項：デザイン、色彩の制限
- 選択事項：高さ、壁面の位置、敷地面積の制限

- ・建築物や工作物の高さ、敷地面積、デザイン、色彩についての初めての総合規制

- デザイン、色彩について「認定制度」の創設
（違反した場合は、代執行、罰則で担保）
建築物の高さ、壁面の位置、敷地面積については建築確認で担保

- ・廃棄物の堆積や土地の形質変更等についての行為規制も可能



〔まちなみイメージ〕

規制緩和措置の活用

屋外広告物法との連携